

プラスチック容器類の 焼却・熱回収への転換に向けて

～新野洲クリーンセンターの稼働（平成 28 年度）に
あわせてリサイクルシステムを転換します！～

問い合わせ 環境課 ☎ 587-6003、野洲クリーンセンター ☎ 588-0568

●現状

プラスチック容器類ごみ（プラごみ）は、容器包装リサイクル法でその対象物が規定されており、容器包装以外のプラスチック製品や、汚れたものはリサイクル工場に引き取ってもらうことができません。クリーンセンターでは、市民の皆さんが集積所に出したプラごみのうち、リサイクルできない異物を手選別で除去していますが、近年、異物の混入が大変多く、リサイクルできるプラスチックの割合は約 54% にまで低下しています。

さらにリサイクル工場では製品に向かない素材のプラスチックを除去するため、結果的に製品にリサイクルされているのは、収集量に対して 3 割程度となっています。

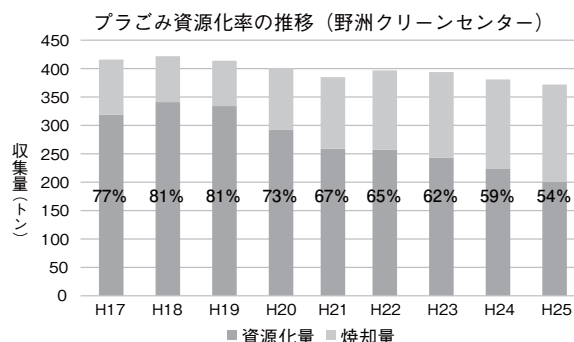
また、リサイクル費用は燃えるごみの約 3 倍（1 kg 当たり約 180 円）もの経費がかかっています。



手選別作業



異物の混入例（左／靴等、右／紙おむつ）



●課題に対する今後の対応

このように、プラスチックのリサイクルに関する現在のシステムは非効率で経費がかかりすぎるなど、多くの問題を抱えています。

国では、制度の見直しが進められていますが、現時点では改善策は示されていません。

こうしたなかで、これまで出前講座や施設見学会などにおいて、「プラごみは、効率面や経費面から熱回収すべき」とのご意見を多くいただきました。

これらの経過を踏まえ、新センターの稼働（平成 28 年度予定）にあわせて、プラごみを焼却してその熱を活用することとし、焼却により施設の周辺環境への負荷を増大させることなく、低コストで効率的な処理を行うこととします。

●主なご質問と回答

①プラごみを焼却すると現状よりも CO₂（温室効果ガス）の排出量が増えるのでは？

ごみ焼却に伴う熱を有効利用することにより燃料や電気の使用を低減し、また、燃えるごみと併せて効率的に収集し、CO₂を削減するとともに、新たに紙ごみの資源化を強化するなど、焼却ごみの減量化・資源化を図り、トータルで CO₂の発生を抑制します。

②プラごみを焼却すると現状よりもダイオキシン類の排出量が増えるのでは？

新センターでは、プラごみを焼却しても排ガス中のダイオキシン類が増加しないよう、現施設の 1/10 の自主規制値（0.05ng-TEQ/m³N）を保証値として満たす最新の排ガス除去技術を導入します。現センターと新センターの排ガス排出負荷量を比較推計すると、ダイオキシン類をはじめ、各種排出ガス物質を大幅に低減（△ 62.6%～△ 87.9%）できる見込みです。

③プラごみを焼却することで、リサイクル意識が低下するのではないかな？

可燃ごみの中で約 5 割を占める紙ごみの資源化を強化することをはじめ、より一層のごみの減量化・資源化を推進します。

●総合的な環境負荷の低減と市民負担の軽減

上記のほか、プラごみ収集車両等の減少や新センター内での選別・減容化の処理が無くなり、総合的に環境負荷が低減されます。また、新センターの稼働（平成 28 年度）から、プラごみは可燃ごみとして収集し、焼却処理を行うため、分別の負担が軽減され、現行制度と経費を比較すると、年間約 4,000 万円の削減効果が生れます。

なお、ごみ焼却に伴い回収する余熱は、新センター内で利用するほか、今後検討する余熱利用施設へ供給します。

ごみ処理手数料の検討も含め、平成 28 年度からの収集方法や、紙ごみ減量化に向けた取り組みは、今後あらためて詳しくお知らせします。

毎月第 4 土曜は
廃食油回収の日

平成26年6月28日午前10時～正午

回収会場：市役所別館横電話ボックス付近 回収物：廃食油、牛乳パック、アルミ缶
問環境課☎ 587 - 6003、エコロジーマーケットやすの会・増村☎ 586 - 1441



歴史の小窓

—学芸員のメッセージ—

歴史民俗博物館

☎587-4410、Fax587-4413

(117)

【休館日】月曜日

※市民は入館無料

◆市史・郷土史講演会「近江と朝鮮通信使」

／6月21日(土)午後2時～4時

講師…郷司泰仁さん(香雪美術館)／事前申し込み不要

◆第6回弥生の森写真展「ふおれすとフォトギャラリー」／6月14日(土)～9月28日(日)

作品募集中(9月21日(日)まで)

◆まちかど博物館「安治を歩く」／6月14

日(土)午後1時30分～ 安治自治会館集合

詳しくは博物館にお問い合わせください。

大篠原で炭が焼かれた

炭窯跡発見

3月に、野洲市環境基本計画山部会のメンバーと大篠原の山に入る機会があり、同部会の人が発見した炭窯跡を確認しました。木炭を焼く窯で、鏡山の下に深く入り込む谷川沿いにあります。その後の発見もあり、全部で3つの窯跡を確認しています。

大篠原の山中は、昨年9月の台風18号による記録的な大雨により、谷川沿いには土砂や倒木等がたまり、かなり荒れている状態が各所に見られました。谷川と斜面との間の狭い平場に石組みの炭窯が設けられていました。

写真は3つの内最も下手

にある炭窯跡で、谷川面より一段高い位置にあります。直径3.1～3.3mの円形で、下手に焚口部分を設け、斜面側に煙突穴を設けています。焚口の左右にも石積みをして土手状に作り、現状での深さは約1.1mあります。円形の中に炭にする木を立て並べ、蓋をして炭を焼いたものと考えられます。川側の低い焚口の左右には石積みをして土手状にしています。蓋は残っていないものの、遺存状況が良好であることに驚かされました。

た。

山林の木は、一般的に集落に近い里山では薪などとして採取され、山奥では炭焼きなどに利用されました。しかし、大篠原の人が炭焼きをしていたのではないようです。以前に大篠原の高齢者にお話を伺ったときには、戦時中から戦後の燃料事情の悪い時期に、村外の人が山の権利を買って炭焼きをしたことが語られています。詳細は不明です。

ところで、江戸時代の絵図では大篠原の鏡山周辺は禿山に描かれています。明治6(1873)年の大篠原村地券取調総絵図では、山裾部分を除き大半が「禿山」となっています。しかし、明治30(1897)年～大正4(1915)年に施工された砂防工事により緑の山となつたと考えられます。昭和20(1945)年頃には炭にするのにふさわしい程度に成長していたのでしょうか。

山の中に入ると谷川は荒れてもいますが、滝があり、せせらぎの音も聞かれ、すばらしい里山であることを実感しました。炭窯跡も大篠原の里山の歴史の一コマ、地域の資源として大切にしたいと思っています。なお、この炭窯跡について『野洲市史編さんだより』第39号でも紹介しています。

(主事 古川与志継)



炭窯跡全景(山手から)



炭窯跡焚口